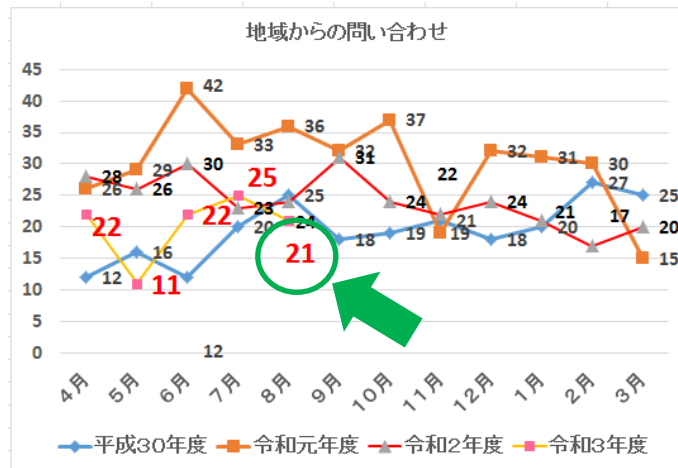




## 8月の地域包括ケア病棟“彩り”の問い合わせ件数について

8月は、21件の問い合わせを頂戴しました。ありがとうございます。お気軽にお問い合わせ下さい。連絡先：0774-73-1818（担当：梶田・中嶋・松田）



## 地域医療連携室より

### ～ 第18回病診連携会議が開催されました ～

9月4日（土）、病診連携会議が開催されました。第18回目となる今年は、学研都市病院がホスト役となり、演者や新入職医師、開催に携わるスタッフ以外は、昨年同様、オンライン参加（医師30数名、地域の専門職20数名）となりました。テーマは、「今後の新型コロナウイルスの展望について ～地域で考える、これからのこと～」です。



相楽医師会 山口会長による開会挨拶



山城南保健所 三沢所長の講演

（オンライン）

岡田有史先生（岡田医院院長）の司会進行で、山口泰司先生（相楽医師会会長）の開会の挨拶により会議がスタートしました。山口会長からは、第5波真っ只中の状況にあつてこの病診連携会議を開催する意義について、分かりやすく、そして力強く語って下さいました。続いて、新入職医師紹介です。当院からは9名の新入職医師が参加し、自己紹介をさせて頂きました。

そして、本題です。会場からではなく急遽オンラインで講演をしてくださった三沢所長からは、この地域の最新の感染状況や連携体制についてお話して下さい、相楽医師会岸田副会長は、自宅療養者の往診の話などを下さり、興味深く拝聴しました。3病院からは、それぞれの病院が役割を

果たすために奮闘している様子が良く伝わる内容で、また、他機関との連携が重要であることを



相楽医師会 岸田副会長の講演



学研都市病院 竺原看護主任の講演



当院加納部長の講演



精華町国保病院 稲田院長の講演



学研都市病院 吉村院長による

#### 閉会挨拶

改めて認識しました。この1年の間、山城南保健所の三沢あき子所長、相楽医師会の山口会長、3病院はそれぞれの院長が指揮を執り、そして、それぞれが協力体制を築きながらコロナと戦ってきたことが伝わる、そして、今年テーマの通り、地域でこれからのことを考えるきっかけとなる報告で、大変勉強になりました。

今回の病診連携会議は急遽、医師以外の専門職の方々にも参加して頂くことになったのですが、オンラインで参加された皆様も同じようなことを感じられたのではないのでしょうか。

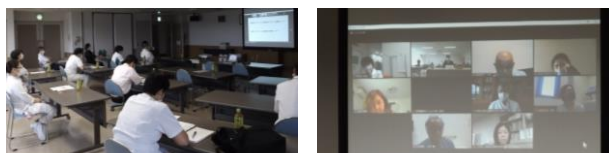
質疑応答では、入院して抗体カクテル療法を実施して退院した患者の、自宅内での家族との隔離についての話や、調剤薬局の活動の紹介など、様々なことが話し合われました。質疑応答の最後には、当院岩本院長より、当院の現状を報告させて頂きました。

そして、閉会の挨拶です。今年ホスト役の学研都市病院の吉村院長から一言頂戴しました。今回の病診連携会議の開催についての山口会長とのやり取りの話や、保健所の皆様や地域の医療機関の皆様への感謝の意を述べられました。

\*

今年の病診連携会議で改めて気がついたことがあります。それは、発言の中で皆さんが「〇〇先生には日頃からお世話になっています」という、相手を思いやる言葉が随所に入っていたことです。そして、その言葉は社交辞令ではなく、日頃からの良好な関係の上に成り立っている言葉だと思いますし、このことに気がついたことは、微力ながら開催のお手伝いをさせて頂いていたものの、会議の直前までバタバタし、当日はうまく開催できるかどうか気を揉んでいた私にとって、報われた瞬間でもありました。

最後になりますが、ホスト役を務めて頂いた学研都市病院の方々、ありがとうございました。準備の段階から、地域医療連携室の三輪様、平井様はもちろん、特に放射線科科長の深田様には大変お世話になりました。(地域医療連携室 室長 南出 弦)



当日は、当院9階にサテライト会場を設けました。